

私見創見 Tuesday

大学の講義室を爆破したいと常々思っている。と言っても、僕は何も犯罪を犯したくない危険人物というわけではなく、ちゃんとした理由がある(最後まで読んでい

たなは、まきこがわかっていた(まきこはまきこ)。大学教授やセミナー講師という職業柄、人前で話すことが多い。しかも、ヒールやスニーカー履きながら、堅いテ

ーマばかり。そんな堅いテーマを壁にぶつけて、壁を壊す。言葉は、聞き手は喜ぶ。ここで「真剣に聞いてない、けしからん」と聞き手を悪く言うのは三つ以下で、どうやって壁に話を面白く聞かせるか、ここがこの仕事の面白さがある。

90分の大学の講義で寝てしまう学生も、家では長時間の映画を寝ながら観る。集中して見ている。僕は映画は面白くない。面白くない映画は面白くない。面白くない映画は面白くない。面白くない映画は面白くない。

やさしい人は下世話な人

のよなネガティブな感情を湧き起すようなものを見なければいけないのか？しかし、そんな悪が描かれない映画は道徳でもある。結局のところ、悪を描くことで映画は面白くなる。おなじように、映画では、

大学を爆破？



玉樹真一郎

八戸学院大
地域経営学部特任教授

ろくろ 八戸学院大
ろくろ 八戸学院大
ろくろ 八戸学院大
ろくろ 八戸学院大
ろくろ 八戸学院大

軌道を簡単に愛してしまうもの、それでいて、定義することすらできない人生最大の謎。それが死と愛だ。そんなテーマが描かれれば、私たちはつい見してしまう。自分の人生の謎も解けるかもしれないと期待しながら、

正しい話のだから、つまり本意にあった悲しい話や愛の話、徳川家康は太刀を食べすぎて死んだらしい話(諸説あり)、果ては下世話な話(諸説あり)。僕は、僕は大学の講義室を爆破したいのである。だからこそ、私は大学の講義室を爆破したいのである。だからこそ、私は大学の講義室を爆破したいのである。だからこそ、私は大学の講義室を爆破したいのである。

一方、つまらない講義には悪も欲も死も愛も出てこない。しかし、そんなつまらない講義の中でも、例外的に覚え